中小企業のイノベーション進める

インタビュー

京都府の産業振興に全力で取り組んでいる山田啓二知事。地域活性化のために知恵を絞り、中小企業の支援を重点施策に掲げる。伝統・文化と最先端産業が同居する京都はさまざまな顔を持ち、万人を惹きつけてやまない。しかし、その魅力を継続、発展させることが一筋縄ではいかないことは想像に難くない。山田知事に京都産業発展への道筋や、明日から始まる「国民文化祭・京都2011」の意義などについて聞いた。

京都府知事
山田 啓二氏

競争力向上を徹底支援

▽◀▽

―京都の産業界の現状をどのようにとらえていますか。

「円高と市場が中国などに広がったことで、京都に割に多い輸出関連の中小企業が非常に厳しい状況だ。リーマン・ショックで景気が悪くなり、ようやく回復してきたと思ったら東日本大震災でいろいろな面で需要が落ち込んだ。そろそろ復興の時期に入り、モノづくりがいよいよ再開するんだと思っていたら異様な円高となり、ものすごく痛い。京都を含めモノづくりの在り方を根本から考えないといけない事態になっており、国も、今のバランスがおかしい円高是正に全力を挙げてもらいたい」

―そのような中で、積極的に中小企業支援を実行していますね。

「多くの中小企業がそれぞれの工夫ができるように、（2010年度からの）4年間で100億円を投資して徹底的に中小のイノベーション（革新）を進める。例えば3万社を回って相談に乗りながら振興する『イノベーションの棚卸し』みたいなことをやっている。ただ、ここにきて円高となったので輸出系企業を中心に数多く回って設備投資の支援をするなど対策を組んだ。そのほか、海外流出防止の補助金で引き留め、その間に競争力のある中小をつくろうと臨んでいる。生産規模は小さくとも地域での雇用力の中心は中小。中小が空洞化してしまうと、雇用能力が失われてしまう」

―競争力を強化するために必要なことは。

「環境や健康など、高齢化時代にあった事業転換を進めていかなければならない部分もあると思う。またモノづくりのコスト競争をしていれば（新興国などに）勝てないので、オンリーワンの企業になるか技術的優位に立つか、それぞれ工夫していかなければならない。だが全部の企業がそのようになれるわけではないから、企業間の連携だとか知的な技術財産の共有化などから新しいモノをつくっていかなければならない」

―関西広域連合での動きも活発です。

「1都道府県でやれる分野というのは、かなり個性的な分野や地場産業で、これまで蓄えたものがあってもそれだけでは大きな社会環境の変化に対応できない。オール関西で国際戦略総合特区に申請した『医薬品』『医療機器』『先端医療技術』『先制医療』『バッテリー』『スマートコミュニティ』の6分野で、イノベーションのプラットフォーム（基盤）をつくっていく。その中に京都の知恵がしっかり組み込まれていかないといけないし、インフラ整備も欠かせない」

―京都産業界の課題は何ですか。

「大規模工場を誘致できるような土地が足りないことと、インフラ整備が遅れている部分があること。厳しい現実のギャップを埋めるためにインフラも整備しているし、工業団地も伝統産業と新産業の融合の中で新しいモノを生み出していこうと『京都新光悦村』（京都府南丹市）を整備した。すでに区画の82％が埋まり、最近の工業団地にしては良く売れている。これからの工業団地は、立地を予定する企業と最初からどういうコンセプトでどういうモノをつくるか詰めていかないと難しいと思う」

▽◀▽

―将来の展望を聞かせて下さい。

「知恵産業には『文化』と『学術』がしっかりと基盤にある。京都が文化・学術において日本の首都であるために文化面についてもしっかりとした基盤づくりを進める。大学も留学生を中心とした『大学の街・京都』というものを打ち出していかないといけないと思っている。知的な基盤が京都の発展の基礎であり、これからも発展のためには一番必要。新しいモノをどんどん生み出して、古いモノとのコラボレーションの中で京都がこれからも文化の中心となる。そして大勢の学生を集める知的中心であることが生命線となる」

知的な基盤が京都発展の〝礎〟

―いよいよ29日から「国民文化祭・京都2011」が開催されます。

「文化産業は観光産業と並ぶ〝総合産業〟の奥が深く、京都ならではの産業。京都府では今年を『京都文化年』としており、キックオフイベントとなるのが国民文化祭だ。文化をしっかり高めていくと同時に、産業面においても伝統産業だけではなく、さまざまな面で大きな影響を与えなければいけないと思っている。それから次の世代につなげていかなければいけない」

「ただ、それはあくまで狙いで、やはり目的としては多くの人に楽しんでほしい。29日（明日）のオープニングパレードにもたくさんの人に見に来てもらいたい。国民文化祭は北は京丹後市から南は南山城村まですべての市町村でイベントが行われる。ホームページなどでチェックして身近なところに出かけてほしい。京都で一番良い季節なので外に出て文化に親しんでもらえたら、それでまた京都も元気づくし、未来に向かって進むことができる」

国民文化祭・京都2011 あすから開催！

11月6日まで

国内最大の文化の祭典「第26回国民文化祭・京都2011」が明日29日から11月6日までの9日間開催され、京都府全地域・全市町村でイベントを繰り広げる。テーマは「こころを整える―文化発心（ほっしん）」。日本人の「こころ」が隅々まで息づく京都で、日本文化の良さを改めて見つめ直す中から、来るべき時代を生き抜いていく知恵と新たなライフスタイルを創造していこうとの気持ちを込めた。

総合フェスティバルやシンポジウムのほか、「伝統文化」「生活文化」「文芸」「音楽」「舞踏」「演劇」「美術」「京都ならでは事業・広域事業」を主催する。29日の10時50分から13時には御池通でオープニングパレードを行う。

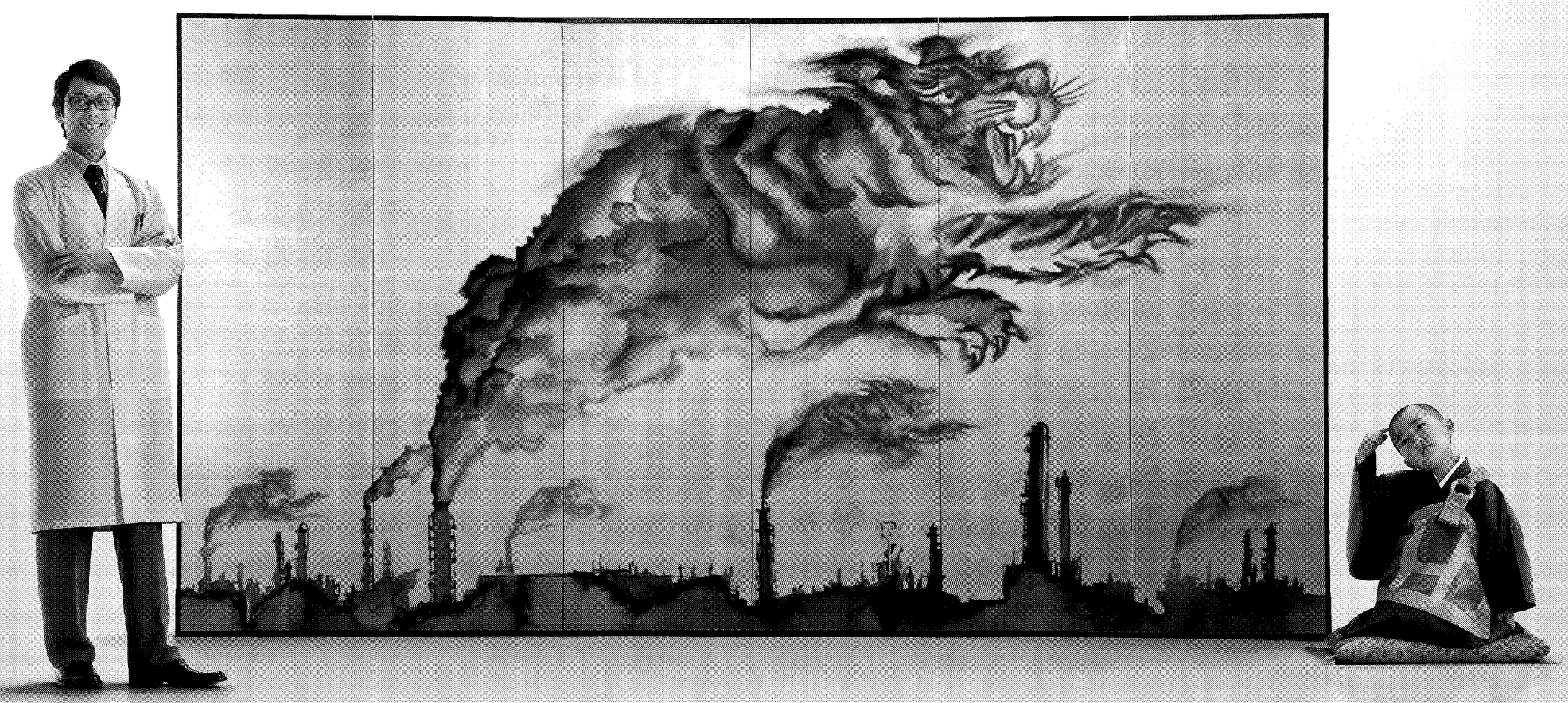
PR隊長の「まゆまろ」

国民文化祭・京都2011 主なイベントの開催スケジュール

10/29（土）	都大路オープニングパレード 開会式・オープニングフェスティバル 食文化の祭典「京料理」 京都映像フェスティバル 赤れんがアートフェスティバル 与謝蕪村顕彰「俳句大会」 小町ろまん「短歌大会」 美術展「日本画、洋画、書、彫刻」
10/30（日）	宇治茶の郷フェスティバル 日本舞踊の祭典/民俗芸能の祭典 合唱の祭典/連句の祭典 日本「鬼文化」交流祭典 『第11回全国鬼サミットin福知山』
11/3（木・祝）	大茶会「植物園大茶湯」 第20回一休とんち大賞 シルクファッションフェスティバル 吹奏楽の祭典/里山合唱フェスティバル
11/6（日）	閉会式・グランドフィナーレ クラシックバレエの饗宴 シンポジウム「里山」 民話の祭典/民謡・民舞の祭典 魅せる・人形芝居フェスティバル

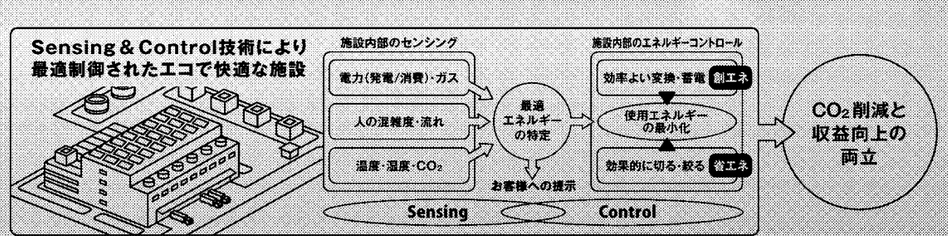
知恵の融合 ～京都から挑戦～

オムロンなら、屏風の虎、追い出してみせます。



やっかいなCO₂を「見える化」してコントロール。企業のCO₂削減と収益向上に貢献します。

地球環境のために、オフィスや工場のCO₂排出を減らすこと。ビジネスの成長のために、生産性を向上させて利益を上げていくこと。企業活動に求められるこのふたつの課題、いちどに解決するのはむずかしいとお思いではありませんか？じつは、技術を上手に生かせば可能になるんです。それが、オムロンのセンシング＆コントロール技術。ふだんは見えない、オフィスや工場のエネルギー消費。これをセンシング技術で「見える化」しコントロールすることで、CO₂とエネルギーコストを同時に削減。省エネをしながら生産性を上げることができ、収益向上に貢献します。経営負担になる省エネではなく、経営のプラスになるエネルギーマネジメントへ。エコの難問を解決するなら、オムロンにおまかせください。



人に、もっと最適な社会を。オムロンに、できること。

オムロン株式会社　コーポレートコミュニケーション部　TEL：075-344-7175　広告に関する問い合わせ　TEL：03-6718-3430　www.omron.co.jp

Sensing tomorrow™　OMRON